



— 道新健保からのお知らせ① —

2021年11月15日

健康保険・介護保険の

保険料率引き上げを検討します

道新健保の保険料率は、健康保険が8.9%、介護保険が1.6%ですが、2021年度予算は健康保険が約3億5800万円、介護保険が約2000万円の赤字になりました。現在の保険料率では、22年度にも別途積立金（準備金）が枯渇するおそれがあります。そこで、事務局では健保財政の健全化を図るため、保険料率の引き上げなどを検討することになりました。みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

【健康保険】

被保険者と事業主が負担した健康保険料をもとに、被保険者らの医療費や高齢者医療制度拠出金を支払い、人間ドックなどの保健事業を行っていますが、16年度から20年度までの5年間で、経常収支が黒字になったのは16年度だけでした。

21年度の健康保険料率を8.5%から8.9%に引き上げましたが、約3億5800万円の赤字予算となりました。別途積立金は約1億2400万円に減少する見込みです。

財政悪化の理由は、高齢者医療制度への拠出金（前期高齢者納付金と後期高齢者支援金）が大幅に増加したことです。

16年度と20年度を比較すると、前期高齢者納付金と後期高齢者支援金の合計は約7億3800万円から約1.57倍の約11億5700万円に増加しました。被保険者らの医療費にあたる保険給付費が約9億3200万円から約7億8100万円に減少していることと対照的です。

支出に占める割合も、16年度の40.2%から20年度は55.1%になり、拠出金の負担が重くなっていることが分かります。

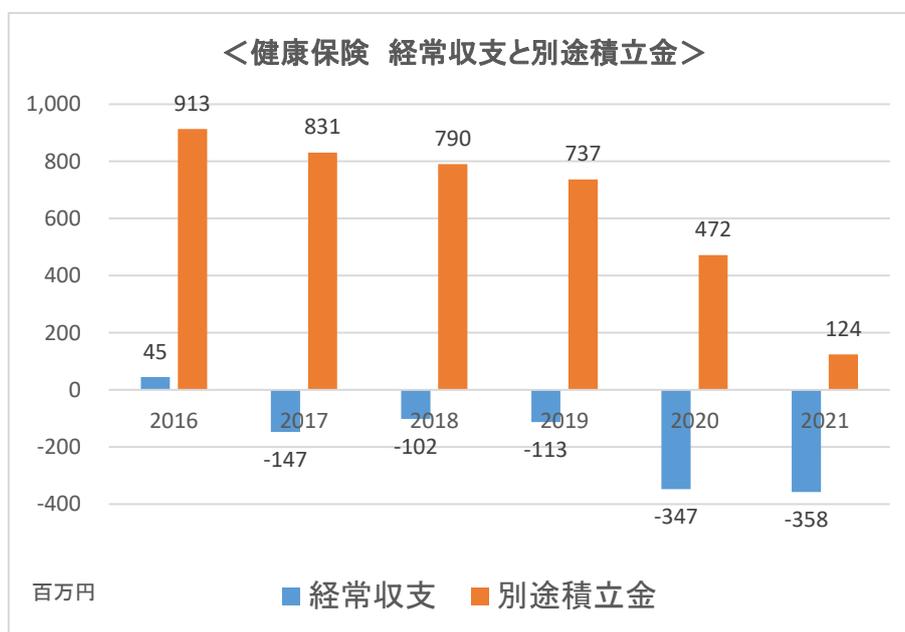
団塊の世代が後期高齢者に到達しはじめる22年度から後期高齢者支援金が増加し、全国の健保組合の財政がさらに悪化するものと見込まれています。

道新健保も現在の健康保険料率のままでは、別途積立金が枯渇するおそれがあるため、健康保険料率の引き上げを検討するとともに、人間ドックの自己負担額などの見直しにも着手します。

< 健康保険の収支 >

(単位:百万円)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021(予算)
保険料等収入	1,883	1,864	1,822	1,797	1,753	1,756
保険給付費	932	995	905	873	781	896
高齢者医療制度拠出金	738	847	854	870	1,157	1,038
(前期高齢者納付金)	(340)	(397)	(409)	(416)	(710)	(602)
(後期高齢者支援金)	(398)	(450)	(445)	(454)	(447)	(436)
その他	167	169	165	167	162	180
支出合計	1837	2,011	1,924	1,910	2,100	2,114
経常収支差額	45	-147	-102	-113	-347	-358
別途積立金	913	831	790	737	472	124



【介護保険】

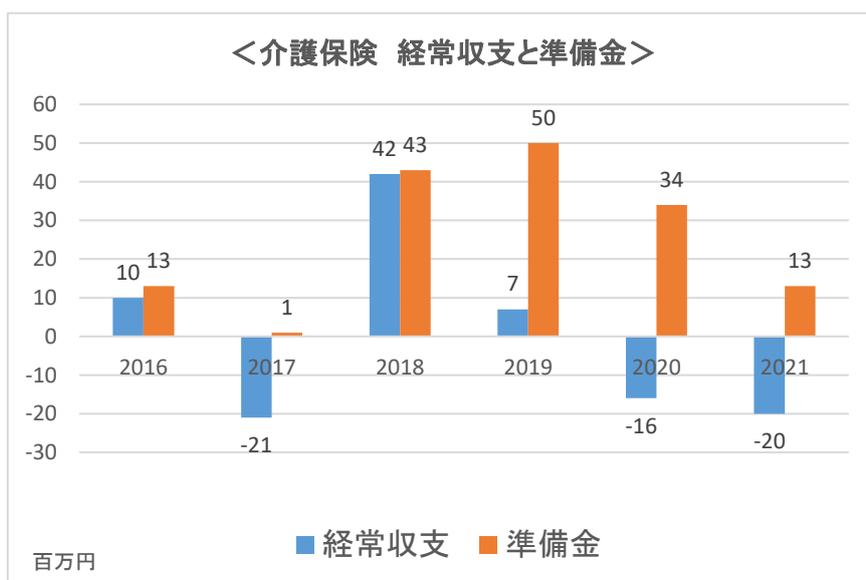
介護保険は全国の市町村が運営しています。道新健保は、被保険者(40歳以上65歳未満)の介護保険料の徴収を代行する形になるので、割り当てられた介護納付金を支払えるように保険料率を設定しています。

17年度から納付金の算定方法に総報酬割が段階的に導入され、財政に余裕のある健保組合により多くの負担が求められるようになりました。納付金の増加に対応するため、18年度に保険料率を1.1%から1.6%に引き上げましたが、20年度と21年度は納付金が保険料を上回るようになったため、納付金に見合う保険料率への引き上げを検討します。

＜ 介護保険の収支 ＞

(単位:百万円)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021(予算)
保険料	195	195	276	272	262	249
納付金	185	216	234	265	278	269
経常収支差額	10	-21	42	7	-16	-20
準備金	13	1	43	50	34	13
総報酬割	—	1/3	1/2	3/4	全面	全面



○ 健康保険と介護保険の保険料率

- 健康保険 8.9% (被保険者 3.1% 事業主 5.8%)
- 介護保険 1.6% (被保険者 0.8% 事業主 0.8%)

(数回に分けて検討内容や他の健保組合の情報などをお知らせします)

北海道新聞社健康保険組合

電話 011-210-5098